

# 平成 29 年度 第2回 新河岸川流域川づくり連絡会 議事要旨

平成 29 年 10 月 3 日 (火) 朝霞市 産業文化センター 研修室兼集会室第 3

## I. 平成 29 年度第 1 回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨

平成 29 年度第 1 回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨が承認された。

## II. 新河岸川流域川づくり連絡会活動協議事項

### 1. 前回議事の対応

発表会の日程・開催地について、第 1 回連絡会の意見をもとに、2 月に所沢市で開催する方針とした。

### 2. 平成 29 年度新河岸川流域川づくり連絡活動について

#### ■主な意見など

##### <現地見学会について>

- ・砂川堀では、地下水位が浅く井戸を掘るのに苦心したといわれている。時間に余裕があれば、見学候補地点近傍の井戸を見学し、利水に関連する歴史の説明も聞けるとよい。
- ・砂川堀流域の畑に巨大な浸透マス(集水井)がある場所があるため、見学できるとよい。

##### <発表会について>

- ・砂川堀は、上下流部では水量が豊富であるのに対して中流部では水量が少ないことや、河川ではなく下水道として位置づけられているなど、固有の特徴を有している。砂川堀のあらましを踏まえた発表を所沢市の職員や現地の方にしてほしい。

##### <しんぶん里川について>

- ・しんぶん里川を流域住民に広く知ってもらうために、流域内の自治体・公共施設・学校への配付の他に、メールマガジンなどインターネットを活用した広報も検討してほしい。
- ・しんぶん里川の配付部数について、配付活動が難しい団体などもあるため、配付部数の調整の余地がある。

#### ■決まったこと

- ・事務局は所沢市や三芳町の情報提供などの協力を得ながら、現地見学会の実施内容を検討する。
- ・しんぶん里川の特集記事は、所沢市もしくは三芳町の職員の方へのインタビューとする。

## III. 勉強会

「流域一体での『いい川づくり』の実現に向けた国、都県、区市町、市民等の連携」と題し、流域内の官民連携に関する現状の把握と、今後の連携のあり方をグループワーク形式で議論した。各班の代表者から全体発表があり、法政大学小寺先生から総括があった。

#### ■全体発表の主な内容

- ・新河岸川流域において、上下流域間の各主体の連携が不十分であることが課題と思われる。
- ・都県・区市町の職員と市民とで連携ができるようになって、人事異動で担当者が変わると振り出しに戻るため、勉強会等を利用して、いい川づくりに向けて、市民と新任担当者の連携を強めるなどの仕組みづくりが必要である。
- ・今後活動を存続するために若い世代の参加を促していかなくてはいけない。
- ・各学校の総合学習で河川、雑木林に関する環境学習をしていただけるとよい。
- ・流域住民と、市民団体とで交流できる機会が増えるとよい。
- ・博物館などと連携し、河川における常時展示の場を作れるとよい。

#### ■法政大学小寺先生の総括の主な内容

- ・毎年連絡会が主催している発表会に、都県の職員に来ていただき、市民団体の活動を見ていただくことが重要だと思う。
- ・まずは、発表会の開催場所に関連する都県・区市町の職員に、連絡会という協議の場に参加していただき、いい川づくりに向けて市民団体と都県・区市町が連携していくことが大切である。
- ・流域をいくつかのブロックに分けて、発表会の開催地をブロックの持ち回りとし、現地の市民団体と都県・区市町が発表会に向けて連携して活動できないかという意見に魅力を感じた。
- ・新しい展開は突然にはできないため、発表会を活用して行政と連携していく方法を模索していくのがよいと思う。

## IV. 情報交換

- ・11 月に埼玉県(総合治水事務所)が事務局をしている新河岸川流域川づくり懇談会を朝霞リサイクルプラザにて開催する予定である。

#### ◆平成 29 年度第 3 回新河岸川流域川づくり連絡会開催について

- ・平成 29 年 12 月～平成 30 年 1 月に開催予定とする。